

令和8年第1回多文化共生推進プラン策定委員会(公開用)

- 日時 2026年(令和8年)7月28日(火) 19:00～20:50
- 場所 湖南省役所東庁舎4階 第4委員会室
- 出席 委員8名 事務局5名 傍聴人1名

開会

1. あいさつ

2. 委員紹介

3. 協議事項

(1)委員長・副委員長の選出

(事務局提案に承認、委員長は森雄二郎委員、副委員長は船越鈴代委員)

(2)市長からの諮問

(副市長が諮問書の読み上げと、委員長への提出)

※資料:第4次湖南省多文化共生推進プランの策定について

(3)湖南省の外国人の状況および湖南省多文化共生推進プランについて

委員長

湖南省の外国人の状況及び湖南省多文化共生推進プランについての説明を事務局からお願いしたい。

事務局

(湖南省の外国人の状況及び湖南省多文化共生推進プランについて説明)

※資料:2、3、4、令和7年度湖南省多文化共生に関するアンケートについて

委員長

この説明について、委員から質問・感想があればお願いしたい。

委員

最近ベトナム人が増えているのを実感している。日本の習慣やマナーがどれくらい理解できているか不安を感じる。4～5人で、ライトをつけず黒い服装を着て自転

車で通勤するのを見かける。マナーを理解してもらうには、勤務先の企業に声掛けをするのがよいのか。

委員長

どのように守ってほしいことを伝えるのかは、以前からの課題であり、起きる問題は変わっても、この本質はうまくいっていないと実感がある。委員は、ベトナム人に関りがあるが、ベトナム人から地域のルールやマナーに関する相談があるか？

委員

地域のルールやマナーではなく、入管法や離婚・結婚の相談が多い。ルールについては、入国前に少し勉強はしてきているが、ゴミ出しのルールなどは細かくて理解できていない。住んでいる場所によりルールが違うので、オリエンテーションなどで教えてあげたほうが良い。100%は難しくても 60%ぐらいは守ってくれるのではないのか。

委員長

市としてオリエンテーションは実施しているか。

事務局

近年増加している、ベトナム、インドネシア、ミャンマーは監理団体を通じてオリエンテーションをしている。また、転入手続きに来庁した際に、簡単なゴミ出しや交通のルールを説明することもある。委員に質問したいが、ベトナム人の方に説明をする、「先輩から聞いた、教えてもらった」ということを聞くと、そういうところはあるのか。

委員

確かにあると思う。ただ、本心は手間がかかると思っている。市として、粘り強く対応すると説明を聞いてくれると思う。

委員長

湖南省として、外国人に伝えるのは難しい問題だが、日本人にも共通する部分があると思う。市民に浸透させることを考えるきっかけにはなると思う。それには、監理団体や企業とどのようにかわるかが一つのポイントになるかもしれない。そのあたり、企業の立場ではどうか。

委員

私は、右も左もわからない人たちに、できるだけ伝えるようにしているし、企業として、働いている仲間には、これまで教えていただいたいろいろなことを伝えるように心掛けている。

委員

湖南省は共生がすすんでいるまちであり、この財産を生かすことが大切。それには交流の機会を増やすことが大切だと考えている。国際交流をめざし、10年前から団体を立ち上げ、ボランティア活動をしている。ブラジル人とポルトガル語講座を開き、3年前からはベトナム人とのベトナム語教室もしている。また、各国の食べ物の紹介と、文化を学び、交流を深めている。

委員長

このような民間・市民レベルの活動が市民に広まり、今後の市民活動や NPO 活動を盛り上げればと思っている。国際協会ではどのような活動をされているのか。

委員

日本語教室、やさしい日本語の普及、街歩きなどの活動をしている。ボランティア活動にも力を入れており、草刈りや防災の啓発活動もしている。活動している中で、外国人とのかかわりを持つ方法としては、こどもとキーパーソンを見つけることが大切だと思う。

副委員長

私の住んでいる地域には外国人が少なく、日頃から関わりが少ない。私は神戸の震災のボランティアに関わり 30 年以上になる。最近外国人から「ボランティアをしましょうか。」との声がかかるようになり、すごく嬉しい。狭い日本で違う文化を持った方と接すると、考えも広がるし、やり方も増やせることができる。

委員長

外国人が何かをしてもらう側から何かをする側に立つというボランティアな気持ちや思いが実現するような仕組みづくりは、ひとつのエッセンスになるかもしれない。たくさん実践されているステークホルダーを繋げば、湖南省バージョンの何かができそうにも思える。

委員

私は水戸にある保育園の立ち上げ時からかかわっている。外国人のこどもたちは、すごく陽気で明るく、日本のこどもより、活発で子育てで学ぶべきものがあると感じている。

委員長

保護者との繋がりやそこでの取り組みはあるのか。

委員

日本人の保護者と同じように関わっている。ブラジル人のこどもの明るさ、生きる力、活発さは、日本の子育てでも参考にできると思う。こどもたちが、外で運動している様子を見ると痛感している。

委員長

ブラジル人は、以前は出稼ぎに来て、一定期間過ぎると帰国してしまっていたが、現在は定住・永住する人が増え、事業所の数も増えてきている。今後どのような指標を作成するかということを考えていきたい。アンケートの結果で国際協会の認知度が低い点は危惧している。事務局に伺いたい、「プランを知っているか」という質問をアンケートには入れていないが何か意図があるのか。

事務局

意図的に外したわけではない。

委員長

この委員会の使命として、プランの内容をいかに市民にわかりやすく周知することだとも考えている。他に意見があれば発言をお願いしたい。

委員

基本の柱1でのコミュニケーションについて、「日本に来たのであれば、日本語の勉強をなさい。」と、日本語ボランティアの方が言うことがあるが、それは違うのではないかと思う。日本人に「ポルトガル語の勉強をしているか。」と聞くと「していない。」と言う。しかし、少しずつでも、日本人も努力をしてきている。やはり、お互いが理解しあうことが大切なことだと思う。

委員

多文化共生は強制するものではないと思っている。甲西中学校には夜間学級があり、昼間の生徒から「夜間のブラジル人の生徒や夜間学級のこと、またブラジルの文化について話をしてほしい。」と要望があり、多文化共生学習で話をした。サンバやカーニバルの文化を話し、体験談として打楽器を使って交流したが、現在はサンバ部を作り活動を続けている。このように、自然に、自分から変えたいと思ってもらえる仕掛け作りも必要であると思う。

委員長

市として貴重な取組を把握できているのか。小さなことでも吸い上げる仕組みやネットワークをどのように作るかが大切で、さまざまな方法で発信し、周知徹底することで実が結ぶと感じている。

(4)第4次湖南省多文化共生推進プラン策定スケジュールについて

委員長

第4次湖南省多文化共生推進プラン策定スケジュールについて事務局から説明願いたい。

事務局

(第4次湖南省多文化共生推進プラン策定スケジュールについて説明)

※資料:5

委員長

今後のスケジュールについてのご意見やご質問があればお願いしたい。私は、別の市でも策定委員会に参加させていただいたが、1年間という短い期間で作成するのは残念で、私は何回でも委員の皆さんが可能であれば参加することは問題ないが、行政のルールなどで実際できていない。設定されている会議以外の日程でも、オンラインを利用してでも、集まれるメンバーが集まることを提案したい。私も委員長としてこの日程だけでは忍びなく感じている。必要があればそういう機会を設定したい。

全員

(賛同)

委員長

プランの骨子で、修正する必要があると考えている。滋賀県の計画策定の作業でも、「コミュニケーションの支援」を「コミュニケーションを促進する」や、「生活支援」を「生活環境を作る整備」など少し言葉を変えて、プラン自体が誰に向かっているものかを示し、市民全員で何かを取組という言葉に表したいと思っている。また、事務局からの素案だけでは限界があるので、その中身を議論しつつ、委員の意見を反映させたいが、時間的に難しいと思う。ただ、私はみなさんとプランを揉みながら作っていきたいと考えている。そのことで、負担をかけする部分があると思うが、是非とも良いものを作るためという意味で、協力いただきたい。意見がなければ第1回目の策定委員会を終了としたい。

4. 事務連絡

事務局

次の会議は9月に予定している。日程調整表は記載の期日までに事務局にご提出をお願いしたいと思う。

閉会

事務局

(あいさつ)